

前年度予算との比較

区 分	令和7年度当初予算	令和6年度当初予算	増減額 (前年度予算との比較)	増減率
一般会計	1,045億 円	1,018億 円	+27億 円	+2.7%
特別会計	545億3,470万円	538億5,260万円	+ 6億8,210万円	+1.3%
企業会計	391億 160万円	380億5,630万円	+10億4,530万円	+2.7%
計	1,981億3,630万円	1,937億 890万円	+44億2,740万円	+2.3%

予算額
391億 160万円

病院事業 205億4,860万円

中央病院は、安全でよりよい医療を提供し、市民の皆さんの命と健康を守ります。



公共下水道事業 102億 500万円

下水道施設の整備や更新を進め、生活環境の向上に努めます。



水道事業 83億4,800万円

安全でおいしい水道水を安定的に供給するため、施設の整備や更新を進めます。



企業会計

独立採算を原則とする事業を行うために設けられた会計

予算額
545億3,470万円

富士市には12の特別会計があります。表中では5財産区会計（鈴川、今井、大野新田、檜新田、田中新田）を省略しています。

特別会計名	予算額
国民健康保険事業	228億8,800万円
後期高齢者医療事業	69億3,900万円
介護保険事業	217億9,300万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	17億7,600万円
第二東名IC周辺地区土地区画整理事業	9億7,000万円
駐車場事業	6,000万円
森林財産	8,300万円

特別会計

市が特定の事業を行う場合や、特定の収入をもって特定の事業の費用に充てるために設けられた会計

一般会計予算の歳入のうち、自主財源が占める割合は59・3％です。市税や寄附金、公施設の使用料、住民票の発行手数料などがこれに当たります。自主財源のうち、市民や企業の皆さんから納めていただく市税は、約8割を占めています。

自主財源比率は、前年度に比べて2・7ポイント増加しました。これは定額減税分が回復することによる個人市民税の増収や、ふるさと納税による寄附金の増加を見込んだことなどによるものです。

自主財源比率は59・3％

企業会計
(前年度比10億4530万円の増額)

● 一般会計

● 特別会計(前年度比6億8210万円の増額)

総合体育館の完成により事業費が大幅に減となる一方、私立保育園等給付費や障害者自立支援費など扶助費の増のほか、小・中学校のGIGAタブレット端末の更新費用の増などによる

令和7年度の予算規模は、令和6年度に比べ、一般会計を合わせると、44億2740万円の増額。一般会計と企業会計は、過去最大の予算規模となりました。増額の要因は、左記のとおりです。

予算規模は過去最大

問合せ／財政課 ☎ 55-2725 ☎ 51-1479 ✉ zaisei@div.city.fuji.shizuoka.jp

詳しい内容は、市ウェブサイトをご覧ください▶

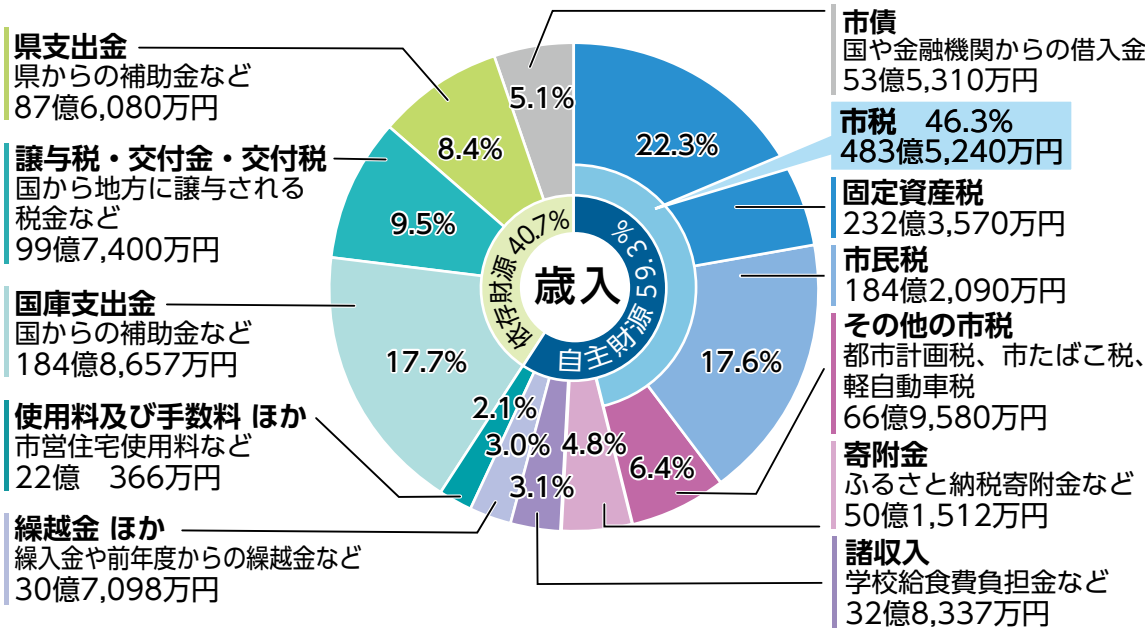


令和7年度 富士市の当初予算

～未来を拓く 少子化突破予算～

令和7年度は、①喫緊の課題である少子化対策に関連する取組②地方創生に向けた取組③時代のニーズを捉えた未来を拓く取組の3つに重点を置いた予算編成をしました。

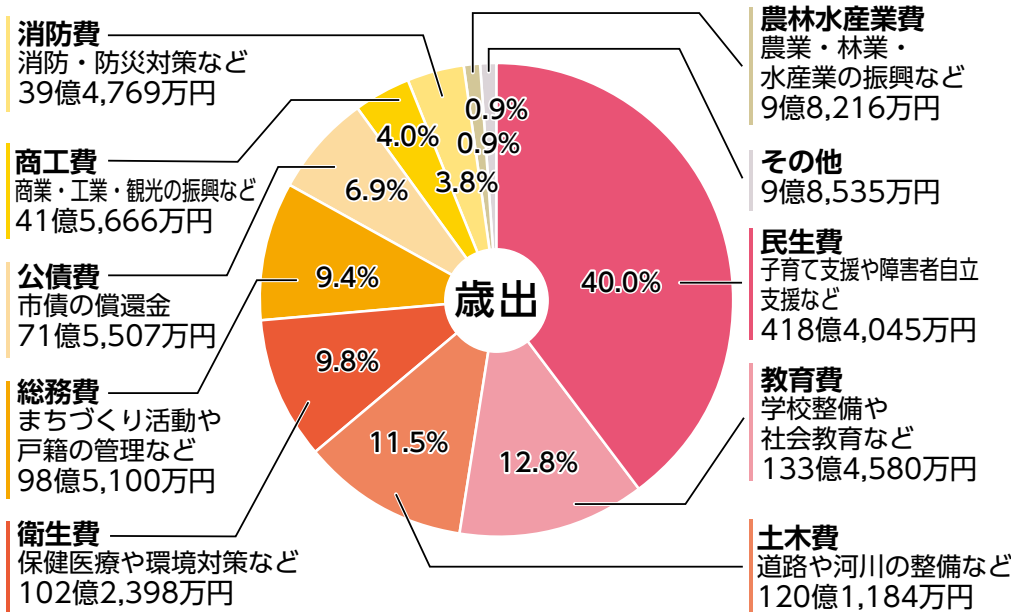
予算額 1,045億円



自主財源 市が独自に収入することができるお金
依存財源 国や県などから入ってくるお金及び借入金

一般会計

福祉や衛生、教育、道路整備など、行政の基本的な事業を行うために設けられた会計



本年度の重点事業(抜粋)

- ◆はぐくむFUJI「ストップ!!少子化」大作戦 3億1,517万円
 - 結婚新生活支援補助金の拡充
 - 若者の出会い・交流機会の拡充
 - 結婚する単身者向けの移住支援を拡充
 - 出産特別祝い金の支給
 - 不妊・不育治療費の助成拡大
 - 子育て・若者世帯F-UJIターン奨励金の新設
- ◆富士駅北口再整備事業 11億5,304万円
- ◆自動運転バス導入事業 7,846万円

歳出を年間の市民1人当たりの金額に換算してみると…

民生費：16万9,744円 教育費：5万4,143円 土木費：4万8,731円

※令和7年1月1日時点の人口(24万6,491人)を基に計算しています。

